

第 61 回 調整力の細分化及び広域調達の技術的検討に関する作業会 議事要旨

日時：2024 年 3 月 26 日（火）16:00～17:00

場所：電力広域的運営推進機関 第二事務所会議室O（Web 併用）

出席者：

横山 明彦 主査（東京大学 名誉教授）

辻 隆男 主査代理（横浜国立大学大学院 工学研究院 教授）

岡田 怜 メンバー（東京電力パワーグリッド(株) 系統運用部 広域給電グループマネージャー）

鈴木 孝治 メンバー（中部電力パワーグリッド(株) 系統運用部 給電計画グループ 課長）

木村 圭佑 メンバー（関西電力送配電(株) 系統運用部 給電制度グループ チーフマネージャー）

配布資料

（資料 1）議事次第

（資料 2）同時市場の在り方等に関する検討会への最終報告について

議題 1：同時市場の在り方等に関する検討会への最終報告について

- ・事務局より資料 2 について、説明を行なった後、議論を行なった。

〔主な議論〕

（一般送配電メンバー）5 回にわたって本作業会の議論内容をまとめていただき感謝する。記載内容に異論はない。短期間の中でここまで取りまとめできたことは本作業会の大きな成果だと認識している。今回の報告においては中間報告以降の議論をまとめるだけでなく、中間報告内容との関係性を示し、各スライド右上に中間報告内容と最終報告内容が区別できる記載をする等、読み手への配慮が感じられる整理がされている。関連する同時市場の記載については、検討会において引き続き検討が進められていくと認識しているが、どこかのタイミングで立ち止まり、方向性が合っているかの振り返りも必要だと考えている。調整力で新たな課題が出た場合には、再度この場で議論いただき、より良い制度にしていきたく、協力して参りたい。念のための確認であるが、今回、最終報告ということになっているが、同時市場検討会において調整力に関する検討課題が追加で発生した際には、再度、本作業会で議論することがあるという認識で宜しいか。

→（事務局）密なスケジュール感であったにも拘わらず、これまで検討に協力いただき、この成果を取りまとめできたことは大変有意義であったと認識しているため、改めて御礼を申し上げたい。いただいたご指摘に関しては仰るとおりで、この点は最後のページにも記載のとおり、同時市場検討会自体が同時市場へ移行する判断を行うにあたり、まずは大枠の検討をしているフェーズである。その判断に必要な大きな枠組みについての検討が今回の検討内容だと考えているが、ご指摘のとおり、運用が近づいてきた時期、あるいは現行の同時市場検討会において見つかった課題等も踏まえて、再度議論すべき内容は今後もあり得ると認識している。そういったところに関しては、同時市場になった際にしっかり解決しておくべき話と考えているため、しっかり連携できるように必要に応じて本作業会のほうでも再度ご議論させていただこうと考えている。

(一般送配電メンバー) 取りまとめに感謝する。今までの議論が綺麗にまとめられていて、内容について異論はない。先程の話にもあったように、運用に向けた詳細検討において引き続き検討すべき課題は多いと認識しているため、実際にその検討フェーズに入った際はまた協力していきたいと考えている。その中で、同時市場の詳細検討がまだあるということと、来年度からの制度に向けて色々変わってきているタイミングというところで、資料の中身からは外れるが1点コメントさせていただく。本日から需給調整市場の全面商品取引が開始となり、明後日には来年度の新しいルールでの広域予備率も見えてくるタイミングとなる。運用が徐々に新しいところへ切り替わってくるが、システム切替後に即運用の形になると、想定外の事象が起こり得ると認識している。今のようにシステムを切り替えてすぐに新しい運用を開始するというのはリスクがあるため、従来の運用と並行してのモニターランも重要だと考えている。運用が問題ないことを確認した後に、新しい運用に切り替えるといった対応が望ましいと考えている。ただ、これをしっかりやろうとすると、システムの新しいものと古いものの二面持ちが必要になってくる。実際にやろうとしてすぐやれるものではなく、具体的なやり方は検討する必要があるが、運用に影響するレベルの大きな制度変更は、こういった観点も重要だと考えている。同時市場の詳細検討はまだ検討する内容が多いと認識しているが、検討に要する期間だけではなく、システム改修期間や運用切替に向けた準備期間も考慮したスケジュールで検討を進めていただくのが良いと考える。

→ (事務局) 今回の取りまとめの資料に関してのみならず、今後の同時市場の検討における重要なご示唆をいただき感謝する。仰るとおり、2024年度からの新しい運用が始まる所であり、今後、同時市場検討会において同時市場へ移行するのかどうかの判断の上で、移行することであれば詳細検討を行ない、制度の設計のみならず、システム改修、評価期間が必要だと考えている。これにあたってはご指摘どおり、机上の空論だけで突き進むのではなく、実際の運用に支障がないように、安定供給の観点から必要な期間を設定することが今後のタスクとしては重要だと考えている。そういったところに加え、足元の運用において見つかった課題等も共有しながら、こういったところが現実的なのかを連携し、検討対応していきたいと、引き続き協力を宜しく願います。

(辻主査代理) 今、皆様がお話されたように、今回の資料は全体として分かり易くまとめられていて、宜しいと考えている。その上でいくつか気になる点がある。今回、同時市場へ移行するのかどうかを検討する上で、必要量の規模感を主に示し、大枠としての考え方を整理するという意味では、一定の成果が得られたと考える。他方、実運用に向かっていくフェーズになっていくとすれば、更に突き詰めていかなければいけない課題が多いということで、資料の中でも様々なところに課題を記載していただいている。どういう課題があるのかはまとめの中にも列挙されていると認識するが、課題がどういったものがあるのかを抜き出して分かり易く整理しておくことは有用だと考える。いくつか課題がある中で、すぐに答えが出るかどうか難しい話もいくつかあり、特に制度の在り方という意味では、今日の話にも出たように、二次②、三次①等、EDC領域を集約した時のインセンティブ付与で高性能なものとそうでないものを、バランス良く、うまく調達するという誘導ができるかどうか等が挙げられる。また、定量的な話になるが、調達断面で必要量の重なりに関するところを割り切って本当に大丈夫かどうかの検討等、色々と深掘りを始めると時間がかかるようなところも複数あると考えるため、一定の時間がかかりそうな課題については今後の情勢を見ながら、早い段階でキックオフをして、遅れのないように先手を打って検

討を進められると良い。同時市場全体のメカニズムの中に、今回の調整力の話を組み込んで全体としてうまくワークするかという話では、今回の検討の当初からあったように、解析のSCUC等の計算にどれだけ重く乗ってくるかどうかだと認識している。全体のアルゴリズムを軽くするために商品の集約をしたり、先程の容量の重なりに関して割り切りをしたり等があるが、これをより精緻にやろうとする場合には、割り切りたくはないけれど計算時間の都合で割り切っているところがどこなのかを明示的に整理しておく、今後、全体像を見ながら計算時間の問題の観点で、問題がなければもう少し精緻化した定式化でSCUCに組み込むこともあり得ると考えるため、そういったところの整理も適切にさせていただくと良いと感じた。計算時間で見れば、おそらくは大変なほうにいき、大丈夫そうだという楽観的なほうにはいかないと予想するため、そういった備えもあると良いと感じた。

→ (事務局) 今後の進め方に関して有益なアドバイスをいただき感謝する。仰るとおり、先程の一般送配電メンバーからいただいた内容と重複するところであるが、実際に同時市場への移行が決まり、それ以降の詳細検討ということになった場合には、更に引き続きの検討が発生すると理解しているが、その検討をするにあたって、遅れなくピックアップして早めに検討する必要性自体はご指摘のとおりと認識している。そういったところの気付きの資料として、課題一覧表や、こういった状況変化があったら検討を着手するのかといった、まとめたものがあつたほうが分かり易いというご示唆だと理解した。ご指摘のところはそのとおりだと理解したので、今回の報告資料に入れ込むかどうかも含めて検討をしたいと考えるが、大きな方向性に関しては、いただいたところをしっかりと遵守していきたいと考えている。最後にいただいた、ロジックに実装した際の負荷に関しては、以前の作業会でも連携させていただいているところではあるが、同時市場の在り方等に関する検討会においては様々な検討が同時並行的に進んでおり、今回の検証Aのところでは電中研にご協力いただきながらロジックの実装判断等を進めている。この点、今回の内容も検証Aのほうに連携して、実際に今回提案したロジックを適用した際にはどういった影響を示すのかも含めて評価をしていこうと考えている。そういったところは作業会という形かどうかは分からないが、改めて別トラックでやっている検証の結果等も共有させていただきながら、次のステップの検討にもスムーズに着手できるように、準備を進めたい。

(一般送配電メンバー) ご説明に感謝する。取りまとめはまとまっていて良かったと感じており、最終報告の方向性について異論はない。先程、一般送配電メンバーから話のあったように、今の制度はこれまでも色々な事業者と事務局が考えて作ってきたものなのだが、それでも、ぎりぎりの時間になってくると色々と課題感が出てきて、結局そのぎりぎりの段階で調整することになってくると認識している。これは皆さんが手を抜いて検討していたわけではなく、実務の段階になってくると検討が深まって、それぞれの課題が出てくるということであろうと理解している。そうやってきた時に、先程のシステムの手直しができるかという話になると、システム機能的にはそこまで対応ができないと考えるため、同時市場が制度化されるとなった時に、いつから開始するのかの見極めを、今後また深掘りで検討できればと考える。運開時期というもののが先に決まるような形で設計されてしまうのは仕方がない部分もあると理解はするが、それがあつたが故に、システム設計の時間がなくなり、検討も見切りの部分が出てスタートしてしまう例もある。そうなつた上で、より詳細な検討をしてしまうと、色々と課題感はあるが時期が決まっているので突き進んでしまうということがあり得る。従つて、方向感としてはあり得るとは理解しつつも、実施運

開時期については先程のモニターランの話にもあるように、どの時点で開始するかというのを今後は慎重に見極める必要があります、実践も含めて考えていかなければいけない。

→ (事務局) 色々有意義なご示唆をいただき、資料についても異論はないとのことで、これまでのご協力に感謝する。最後にいただいたコメントについても仰るとおりで、ある意味、制度設計の定めのようなこともあり、悩ましい問題だと考えている。先程、一般送配電メンバーと辻主査代理からもいただいたように、課題があれば常にピックアップできるように体制を整えておくということも必要だと考えている。後工程ということも意識した上で、全部が全部解消可能とは言い切れないところはあるが、どこで折り合いをつけるのかの観点は重要である。これまでの過去の苦い経験も活かしながら、今後の課題として考えていきたい。

(辻主査代理) 他にご意見ないか。宜しいか。ご議論いただき感謝する。本日は議題一つだけということで、予定議題は終了となる。本日は最終報告ということであったが、今回の検討全体を通じての様々なご意見もいただいた。皆様にご協力いただき、同時市場の在り方等に関する検討会からタスクアウトされた調整力の検討について、一定の成果が得られたと考えている。本作業会の単独開催にあたっては、先程事務局からも話があったが、非常に短期間の中で非常にボリュームのある検討となった。作業会メンバーの皆様にはご協力いただき感謝する。事務局においても大変な検討だったと認識するが、ご対応いただき感謝する。今回の内容については需給調整市場小委のほうでご報告いただくとともに、同時市場の在り方等に関する検討会へのご報告を進めていただきたく、宜しくお願いする。
本日は以上とさせていただきます。

以 上